ことばのおたより

一般財団法人 三宅医学研究所
てふてふ

令和５年度９月

相変わらず暑い毎日ですが、雲の形や虫の鳴き声から季節の移り変わりを感じます。

7月のスライム・寒天遊びでは、スライムのベタベタ、ネバネバとした感触が少し苦手だった子も、力加減が分からず寒天がうまく触れなかった子も、お友だちの声を聞いて、遊んでいる様子を見て、握りつぶしてみたり、ちぎってみたり。やりとりをしながら遊びが広がり、楽しい時間を過ごしました。また、「赤色ちょうだい」「見て、色が変わったよ」など、「色」に着目した子どもたちの声がたくさん聞こえてきました。

9月は色水遊びをします。豊かな発想を持つ子どもたちから、どんな言葉が聞こえるかとても楽しみです。引き続き、汚れても良い洋服の準備をお願いいたします。

色水遊びは絵の具などで水に色をつけ、その色を楽しんだり、それを混ぜたりする遊びです。色が変化する様子を観察することで色彩感覚や想像力が育まれます。

人間の五感による情報収集で、一番情報量が多いのが視覚。人が受け取る情報の約8割は視覚からの情報だそうです。に関しては、生後4カ月頃までは赤・青・黄色しか見分けられず、その後「色の持つ明るさ・暗さ」の認識から徐々に発達し、3～6歳頃までに大人と同じように「色合い」を認識できるようになると言われています。基本の色の名前が分かるのは2歳から3歳頃で、4歳台で10色程度の色の名前が言えるようになる子どもが多いです。

クレヨンや色鉛筆、おもちゃの色、身の回りの風景の中の色。たくさんの色を見る経験を通して、豊富な色彩感覚と、表現したい気持ちを身につけていきましょう。